

## ◆やまがた子育て講座◆

### 事例1 「ゲーム依存ってなあに？」

会場：尾花沢市立常盤小学校（講師はオンラインで講演）

講師：東海林 岳樹 氏（山形県立こころの医療センター 診療部長）

<親子教育講演会（全体講演会）>

- (1) 「依存症」とは？
- (2) 依存症の種類と分類
- (3) ネット・ゲーム依存がもたらす問題点
- (4) ゲーム依存にならないために
- (5) 家族が心がけるポイント



<学級懇談会（講演会を受けてのグループ討議）>

—話し合いの視点の例—

- ・オンラインゲーム、YouTube など、保護者はどう向き合っていくか
- ・子どもの自己肯定感を高めるために心がけていること、今後心がけたいこと

<感染防止対策>

- ・Zoomによるオンライン開催、各教室に分かれて少人数で視聴 など

<参加者の感想>

- ・ゲームやメディアから離れるにあたり、その時間をどう過ごすのか考えてあげること、話し合いをすることが大事だなと思いました。
- ・その日の気分などでスマホを貸すなどしているので、期間を決めて、貸すなら貸す、貸さないなら貸さないと決めるよう話し合いたいです。
- ・子どもだけでなく自分も気をつけるようにしたい。親が決めてつけてはいけない。

### 事例2 「子どもの困り感に寄り添って」

会場：金山町立金山小学校

講師：花笠ほ一ふ隊

<全体講演会（座談会）>

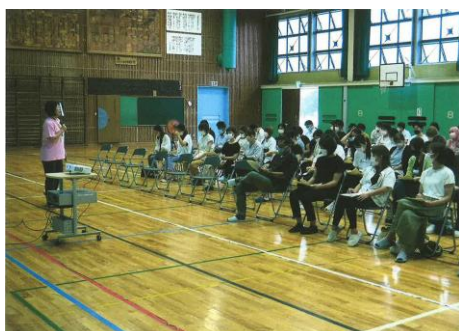
- 1 花笠ほ一ふ隊の皆さんより自己紹介と花笠ほ一ふ隊の説明と活動の紹介をいただいた。
- 2 障がいを知るというのは他人事ではないこと、理解のある人が地域に多数いることが誰にとっても生きやすい社会につながることを伝えていただいた。
- 3 障がいの疑似体験を行った。



<感染防止の工夫> 検温カードの提出、マスクの着用

<参加者の感想>

- ・ユニバーサルデザインフォントを使うと読みやすいということが勉強になりました。
- ・障がいのある子もいない子も同じように、周りの理解と協力で成長するので、周囲の助けが必要なのだと思います。
- ・がんばっていないわけではない、自分のせいではないわけではない、ということ自分の子どもの教育の時にも意識しようと思いました。



### 事例3 「子どもの自尊心を育む勇気づけの子育て」

会場：真室川町立真室川北部小学校

講師：笹原 英子 氏（県家庭教育アドバイザー）

#### <全体講演会>

- ・参加者が3人グループになって、それぞれ子どもの自慢できる部分を発表し合った。
- ・子どもの自尊心を育てる子育てとして、「勇気づけ」とはどのようなことをいうのか、また声掛けの方法などを講師の先生より話していただいた。



#### <グループワーク>

ロールプレイとして、参加者が親役と子役になって会話を交わした。親の答え方によって子どもがどんな心情になるのか、体感していただいた。



#### <感染防止の工夫>

- ・参加者の席を離して配置した。
- ・会場入り口に非接触型体温測定器および消毒液を配置した。

#### <参加者の感想>

- ・自分が良いと思ってやってきたことが間違いであることが分かってとても良かったです。すぐにはできないかもしれないが、今日聞いたことをぜひ子どもにしたいと思いました。
- ・子どもをもっと認めることから始めてみようと思いました。

### 事例4 「親として子どものためにできること ～小学校入学を前にして～」

会場：長井市立平野小学校

講師：鈴木 真弓 氏

#### <全体講演会>

- 1 小学校はどんなところ
- 2 これまでの教員生活の経験から
- 3 今だからこそ家庭で大事にしたいこと  
(絵本の読み聞かせ)



#### <感染防止の工夫>

- ・参加者の間隔を広くとり、マスク着用での実施
- ・会場内の窓を開け、常時換気

#### <参加者の感想>

- ・子どもへの声かけ等考えさせられる点が多かったので、子どもと接するときに意識していきたい。
- ・子どもに寄り添うことが大事だと思った。
- ・日々、仕事と家庭の忙しさに追われ、なかなかできていないが、子どもの目をみてゆっくり話すことを心がけていきたい。

## 事例5 「就学前に大切にしたいこと」

会場：白鷹町立荒砥小学校

講師：小野 卓也 氏 (家庭教育アドバイザー)

### <全体講演会>

- 1 校長あいさつ
- 2 講話・研修
- 3 アンケート記入



### <感染防止の工夫>

- ・就学時健診時における保護者のみを対象とし密にならないようにした。

### <参加者の感想>

- ・子どもと触れ合える時間は思ったよりも短く、あと数年しかないことに気付かされ今を大切にしようと思った。
- ・親の言いなりにするのではなく、そうなるような環境をつくり、うまく誘導することが大切だということがわかった。叱ることは意味のないことということに納得した。
- ・初めての子育てでわからないことばかりで、どうしたよいか不安に思っていたことが、今回の講座を聴いて不安が和らいだ。
- ・生活リズムやルールをつくったり、子どもと一緒に頑張っていこうと思った。
- ・保護者同士が話をする時間もあり、他の家庭の生活習慣を聞くことができ良かったし我が家だけではなくみんな同じような悩みを抱えながら日々頑張っていることに安心した。

## 事例6 「うんちから学ぶ生活リズム ～腸すっきりな快眠へ～」

会場：三川町立押切小学校

講師：庄内ヤクルト販売

### <講演会>

- 腸内環境とうんちについて
- バランスの良い食事と菌活
- 快眠へつながる生活習慣とは
- おなか元気生活のポイント

### <感染防止の工夫>

- ・手指消毒、マスクの着用。
- ・会場を体育館にし、座席の間隔を広く空けて密を避けた。



### <参加者の感想>

- ・腸内環境について考えるよい機会になりました。家庭でも話題にして家族みんなで意識していきたいと思いました。
- ・うんちの出る時間帯の違いでも免疫の違いが出ることに驚きました。バランスの良い食事や生活習慣の大切さを改めて感じました。
- ・子どもがよく便秘をするので今回の講演会に参加しました。食事の見直し、腸には何が良いのか学ぶことができたので今後に役立てたいと思います。また、教えていただいたマッサージもやってみます。

**事例7** 「大切にしたい『ふるさと』『ことば』」

会場：鶴岡市立あさひ小学校

講師：佐藤 雅秀 氏（前鶴岡市立あさひ小学校長・朝日地域学校運営協議会委員）

<講演会>

○学校で大事にしたい学び＝「よみ」「かき」「そろばん」＋「つながり」

○つながり…「ふるさと」を核にした学びから 『郷土かるた あさひ』に拾う」

○よみ・かき…「ことば」の学びから 何よりも日々の生活が鍛える場

○子どもの学びを支える～親の力の見せ所

<感染防止の工夫>

- ・検温、手指消毒、マスクの着用。
- ・会場は広い場所にし、座席の間隔や換気にも配慮した。

<参加者の感想>

- ・「日々の生活が鍛える場」、「子どもの力を伸ばすことを意識する」というワード、自分に足りないところだと感じました。学習する場は学校だけではないですね。

家庭が学びの場であることを改めて意識させられました。

- ・ふるさとの大切さはもちろん、これから先グローバル化と共に、両方を大切に子どもたちに成長して欲しいと願います。サポートしていきたいと思いました。

